



発行所  
財団法人 日本手芸作家連合会  
〒160-0023  
東京都新宿区西新宿5丁目25番13号  
パラガイハイツ 9階C室  
電話 03-3374-3359  
FAX 03-3374-3352

# 謹んで新年の御祝詞を申しあげます



会長  
岡谷 恭子

昨年は地球規模の経済界の変動がおこり、一〇〇年に一度の台風が吹き荒れているとの表現がなされる程でした。日進月歩が急速に進むなか、人々は目に見えない大きな力に翻弄されそうな不安と世の中の進歩に遅れない生き方に駆り立てられるような慌しさを覚える昨今です。

しかし人々の豊かな感性と美しく心満たされる世界を追い求める生き方は永遠に変わることはありません。それは人間の手と頭が生み出す世界であるという思いを最近とみに感じます。人間の手の持つ魅力は何と不思議な存在なのでしょう。手と脳の働きの関係。人間の手の技が生み出す限りなく魅力に満ちた世界！

人間の育成を「手塩にかけて育てる」と言い、手工芸作品も「手塩にかける」と同じ心境で我が分身とも言うべき作品を創作します。そしてそれは回数を重ねる毎に、成長の跡が見えます。

本連合会では人間共通の願望である美の世界の創造を目指す作家や指導者の育成と生涯教育の推進のために次の活動を行っています。

その一つは資格認定。他の一つは創作手工芸コンクールです。前者は自己研鑽部門であり、これについては本連合会では「明日への

## 新年号

- 第185号 1月号
- ・会長新年度あいさつ
- ・全国支部長・教室長会
- ・平成20年度研修会
- ・第41回創作手工芸展表彰式
- ・筆のむくまに 第14号

平成20年度全国支部長・教室長会開催される

去る平成20年11月27日(木)午後3時から、上野精養軒あやめの間において、1年ぶりに支部長・教室長会が開催されました。

始めに、岡谷恭子会長が挨拶の後、出席者の自己紹介があり、次いで宮川理事長の司会で議事が進行し、充実した討議がなされました。

議事の内容は以下のとおりです。

### 1 報告事項

- ① 事業報告  
庄子常務理事から、前年度の事業について、資料に基づき詳細な報告が行われた。
- ② 財務報告  
福島常務理事から、前年度の決算について、資料に基づき報告が行われた。

### 2 議題

① 会の運営方法について  
片山副会長から、財務報告のとおり会の財政は逼迫した状況にあり、今後の運営には厳しいものがあるとの説明があった。また、打開策としては、会員の増加が考えられるが、現実には年々減少しているのが実態であり、教室長・支部長には会員の確保に万全を期



してもらいたい旨の要望があった。

②資格審査の基準について

渡邊副理事長から、従来資格審査については、審査時期が一様ではなかったが、最近は何創作手芸展に合わせて申請(出品)してもらい、外部審査員の評価も加味して総合的に審査していることが説明された。また、一度不合格となっても、年度内に再度申請があった場合には、再審査を行うことが補足説明された。

③公益法人制度改革に伴う会のあり方について

宮川理事長から、今年の12月1日から改正法が施行され、全ての公益法人が特例民法法人化するが、本連合会も移行期間の5年間のうちに新制度に移行しなければならず、「公益」と「一般」のどの選択肢を取るか今後特別委員会等で十分な審議が必須となる旨の説明があった。

以上  
文責 宮川辰男

平成20年度研修会を終えて

第一部 講演会

晩秋の静かな一時を、文学サロンとも言うべき水月ホテル鵜外荘で、実り多き研修会を行うことができました。この鵜外荘も一つの「出会い」でした。

石井先生は講演「出会い」の冒頭で、人生でのかけがえのない人達との出会いは、自分の人生をも大きく変えてしまう力をもっているとおっしゃり、ご自分の高校時代のこと、大妻コタカ先生との出会い、笹原紀代先生のことなど、まさに人生の出発点で、強い影響力を持った方のお話からスタートしました。

一九六〇年代、ヨーロッパ研修旅行では、服飾工芸界の立役者、ガブリエル・シャネルとの出会いに衝撃的感動を受け、服飾界の動きを世界的に変えてしまう程時代の変化をいち早く捉える鋭い感性と具現力を讃えられました。そして王侯貴族以外、庶民には手の届かなかつた宝石を、イミテーションを用いることにより庶民でも用いられる世界を開拓した事などを熱く語り、新しい世界を創造する人の眼の鋭さを説かれました。そして白洲正子さんも同じ眼をしていると感慨深げに話されました。

又職人と言われる技術者の技の素晴らしさ、説得力のある話し振りに強く、感動し、特に日本の匠といわれる

方の腕前のたしかさと職人哲学ともいべき話の論旨に感動されたようです。そして最高の物を見極める目利きとなることや感動する豊かな感性を養う事の大切さを語られました。



文責 岡谷恭子

第二部 懇親会

講演会のあと、鵜外荘一階にある「富士の間」で和気藹々とした雰囲気の中で楽しく懇親会が開かれました。

ゆつたりと設えられた広間で美しい懐石料理を囲みながら親しく会話を楽しみました。

今回、全国から参加してくださいました皆様方に、地域のご様子を伺いたいと思い、何人かの方にお願ひし、ご活躍のご様子やご挨拶を戴くことが出来ました。

夜も更けて、お名残りを惜しみつつ、またの再会を来年に託し、平成20年度の研修会、懇親会を終了しました。

ご協力を心より感謝申しあげます。研修会担当 土井・庄子

「出会い

—かけがえのない人たち—

大妻女子大学名誉教授 石井とめ子

晩秋の暮方、上野の森にある水月ホテル鵜外荘でのひと時を、私の人生において出会い、多くの触発を受けた「かけがえのない人たち」についてお話ししました。その概略を列挙してみます。

まず、最初の出会いは昭和二十五年、入学した高等学校は教室に教壇がなく、教師と生徒が同じフロアで同じ目線で自由に話し合える民主的な環境と広い視野で思考することの大切さを学びました。校長先生の発案で仮設の創造門をくぐった印象的な卒業式でした。

●大学受験では、薬学志望から一転して大妻コタカ先生を尊敬する父の命により大妻女子大学へ。

当時、コタカ先生が一目おく笹原紀代先生に出会い、服飾に携わる者の見聞体験を自覚させられました。

●昭和三十九年、北回り世界一周服飾研修旅行では、パリのシャネル店を訪問、シャネル自身に出会い、ファッションショーやお住まいにいたるまで拝見することができ、ここでは、本物というものを直に体験することができました。

シャネルの功績は省略。

●次いで四十年代の日本では洋服学校やデザイナーの全盛期でした